

平成25年(2013) 3月 入域観光客数概況

平成25年4月公表資料

3月の観光客数は、56万8,900人
対前年(H24)同月比 +3万5,800人、+6.7%

入域状況

平成23年度との比較 入域観光客数

区分	H24	H23	増減数	増減率	構成比
国内客	544,300 人	510,200 人	+ 34,100 人	+ 6.7%	95.7%
外国客	24,600 人	22,900 人	+ 1,700 人	+ 7.4%	4.3%
合計	568,900 人	533,100 人	+ 35,800 人	+ 6.7%	100%

平成22年度との比較 入域観光客数

区分	H24	H22	増減数	増減率	構成比
国内客	544,300 人	423,300 人	+ 121,000 人	+ 28.6%	95.7%
外国客	24,600 人	8,400 人	+ 16,200 人	+ 192.9%	4.3%
合計	568,900 人	431,700 人	+ 137,200 人	+ 31.8%	100%

国内客 入域状況

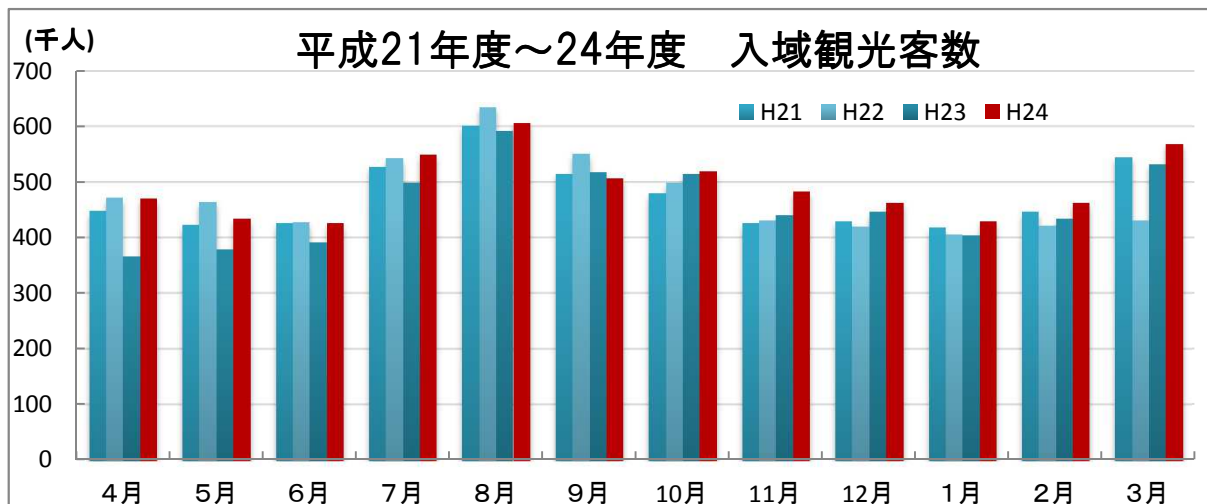
3月は成田・関西におけるLCCの誘客効果に加え、新石垣空港の開港による石垣への観光客数増加、旅行会社による需要喚起により各方面で前年実績を上回り、好調に推移した。

4月も引き続きLCC利用の誘客効果をはじめ、各エアラインの予約状況が好調であること、石垣、宮古も客数増加が予想されることから堅調な推移が見込まれる。

外国客 入域状況

3月は航空路線が拡充している台湾、韓国からの観光客数増加に加え、台湾からのクルーズ船が寄港し始めたことから前年実績を上回った。

4月も引き続き台湾、韓国からの観光客数増加が期待されるが、中国人観光客数が前年実績を下回ることが予想され、月全体としては伸び悩みが見込まれる。



地域別入域状況(国内)

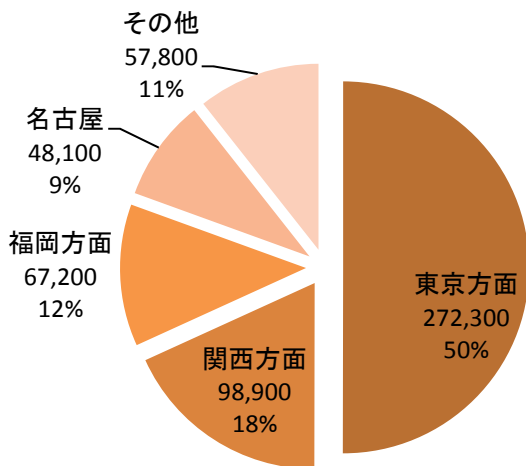
区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	272,300 人	251,700 人	+ 20,600 人	+ 8.2%	50.0%
関西方面	98,900 人	93,800 人	+ 5,100 人	+ 5.4%	18.2%
福岡方面	67,200 人	64,400 人	+ 2,800 人	+ 4.3%	12.3%
名古屋	48,100 人	44,500 人	+ 3,600 人	+ 8.1%	8.8%
その他	57,800 人	55,800 人	+ 2,000 人	+ 3.6%	10.6%
合計	544,300 人	510,200 人	+ 34,100 人	+ 6.7%	100.0%

※国内海路客:3,000人を含む (東京:100人、関西:100人、鹿児島:2,800人)

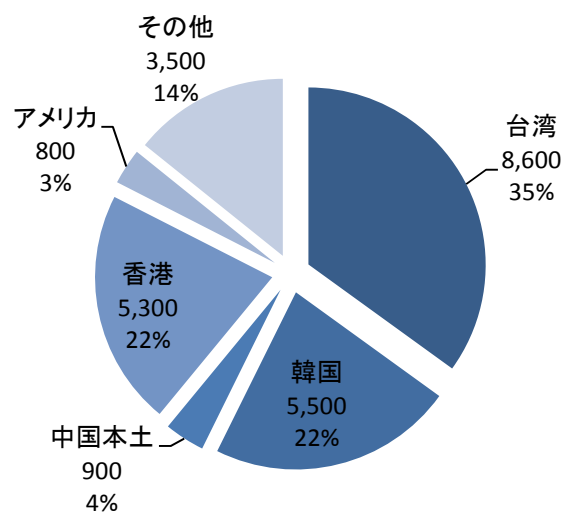
国籍別入域状況(海外)

区分	H24年度	H23年度	増減数	増減率	構成比
台湾	8,600 人	3,600 人	+ 5,000 人	+ 138.9%	35.0%
韓国	5,500 人	2,400 人	+ 3,100 人	+ 129.2%	22.4%
中国本土	900 人	6,000 人	△ 5,100 人	△ 85.0%	3.7%
香港	5,300 人	5,000 人	+ 300 人	+ 6.0%	21.5%
アメリカ	800 人	600 人	+ 200 人	+ 33.3%	3.3%
その他	3,500 人	5,300 人	△ 1,800 人	△ 34.0%	14.2%
合計	24,600 人	22,900 人	+ 1,700 人	+ 7.4%	100.0%

国内客 構成比



外国客 構成比



国籍別 空路・海路 入域状況(海外)

区分	空路 21,000人			海路 3,600人		
	観光客数	増減率	構成比	観光客数	増減率	構成比
台湾	7,300 人	+102.8%	34.8%	1,300 人	皆増	36.1%
韓国	5,500 人	+129.2%	26.2%	0 人	-	0.0%
中国本土	600 人	△82.4%	2.9%	300 人	△88.5%	8.3%
香港	5,300 人	+23.3%	25.2%	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	400 人	△20.0%	1.9%	400 人	+300.0%	11.1%
その他	1,900 人	+35.7%	9.0%	1,600 人	△59.0%	44.4%
合計	21,000 人	+34.6%	100.0%	3,600 人	△50.7%	100.0%

※特例上陸者数:1,900人を含む

東京

3月は成田からのLCC誘客効果、大型コンベンションの開催、春休みシーズンが影響し、団体旅行を中心に好調に推移した。また、「新石垣空港」の開港が各主要メディアを通して宣伝され、積極的なセールスが行われたこともあり、石垣への観光客数が大幅に増加した。4月について、各エアラインの予約率や羽田・石垣、宮古島への客数も好調が予想され、また、今後のGWにおいては前半が伸び悩んでいる一方、後半は好調に推移する見込み。

大阪

3月は春休みの学生旅行など、若年層の価格訴求型商品への関心が高かったこと、また、LCCによる誘客効果が寄与し前年実績を上回った。旅行会社による4月の沖縄旅行予約状況は好調であり、また、4月中旬からファミリー特化商品、低価格商品が販売され、5月以降の旅行予約動向に期待される。

福岡

3月は旅行会社によるキャンペーン等の効果もあり、月全体としては好調に推移した。4月は機材不足の影響で減便が見込まれており、個人型旅行商品を中心に入域観光客数への影響が懸念される。また、4月～6月において、GW以外は連休がとりにくい歴のため九州エリア内での温泉旅行商品をはじめとする安近短の商品との競合が予想される。

名古屋

3月は旅行会社が空席の多い時間帯の便に割安な商品を設定し搭乗率が向上しており、更に新石垣空港開港に伴う、直行便就航による石垣路線を中心に旅行者数が好調に推移した。4月の上旬と下旬は好調な予約状況となっており、特に石垣への旅行予約が好調である。JTAの支店の撤退による影響が懸念される。

台湾

3月は昨年と比べ復興航空が就航したこと(週7便)、さらにクルーズ船入港が一か月早く開始されたため、空路・海路において昨年実績を上回った。今後は沖縄への旅行需要は安定しており、円安による旅行代金低下の効果に加え、航空路線も拡充されていることから、引き続き好調な推移が見込まれる。

韓国

3月は昨年同月と比較すると航空路線の増便、新規就航に加え、TWAY航空のチャーター便運航(2/7～3/3 送客7便)もあり、昨年実績を上回った。今後は3月末日からジンエアーが週7便から週5便へと変更されたものの、円安による旅行需要増加等を背景に好調な推移が見込まれる。

中国本土・北京

一部の旅行会社では北京の新聞紙面、旅行広告等で「訪日旅行」広告が開始されているが、直行便がない段階では沖縄旅行の販売までには至っていない。今後は海南航空、中国国際航空の運航再開が予定されているものの、尖閣関連の影響について注視していく必要がある。

中国本土・上海

各社とも花見ツアーを販売したが、予想に反して旅行客数は少ない結果となった。沖縄ツアーは団体客は見当たらず、FIT客がほとんどとなっている。今後もFIT客の旅行需要に変化は見られないが、団体客は減少しており、中国人全体としては減少となる見込み。各旅行社とも尖閣関連の影響からの回復には時間が掛かるとの見方が多数占めている。

香港

日銀の金融緩和政策による円安や格安航空券販売の影響に加え、3月末から始まるイースターホリデーの連休を利用した旅行需要が高く、好調に推移した。今後は6月に向けて家族旅行の需要が減少することが見込まれるが、6月後半から夏休みに向け、徐々に旅行マインドが上がっていくことが想定される。また、機材の大型化もありコンスタントに旅行客は増加して行く見込み。